北海道・札幌市
政　策　研　究
みらい会議

2016 年度

活動実績報告書

■ 目 次

1 北海道・札幌市政策研究みらい会議とは……1

2 平成28年度活動経過 ……2

3 会議開催実績……3

4 活動実績……4

（1）道内ジオパークの振興に向けた取組……4
①チ・カ・ホで体験！ジオパーク
②札幌の街を歩く。～札幌発展の痕跡をたどる旅～
③ジオパークグルメフェア

（2）ドローン操作体験会……9

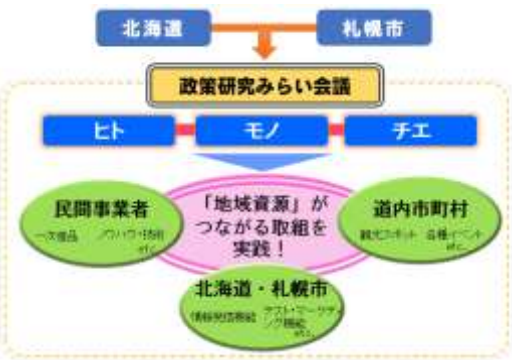
（3）AI等に関する勉強会……11
①AI技術に関する勉強会
②ロボット＆AI勉強会

（4）クラフトビールを楽しむ会「クラフトビール王国北海道への道」……14

5 今年度の活動を終えて ……16

1　北海道・札幌市政策研究みらい会議とは

「北海道・札幌市政策研究みらい会議」（以下、「みらい会議」）は、北海道知事と札幌市長が意見交換を行う「北海道・札幌市行政懇談会」において合意され、平成 25 年 8 月に設置された、北海道と札幌市の若手職員で構成する分野横断的なプロジェクトです。『北海道と札幌市の未来を担う人的ネットワークの拡充』、『自由な発想による「北海道のより良きみらい」に資する地域政策の企画・立案や活動の推進』を目的として、様々な取組を行います。



運営方針

地域資源をつなげる複数分野の取組を、自ら実践することで、「資源価値の向上」や「交流人口の増加」といった北海道の発展につながる可能性を探究する。

平成 28 年度構成メンバー

○北海道（7 名）

所　属	氏　名
総合政策部政策局	山本 雄児
総合政策部航空局航空課	難波 花菜子
環境生活部総務課	森山 寛史
環境生活部環境局循環型社会推進課	梅津 茜
経済部地域経済局中小企業課	後木 美緒
農政部生産振興局畜産振興課	九島 有梨華
建設部まちづくり局都市計画課	竹部 公章

○札幌市（6 名）

所　属	氏　名
まちづくり政策局政策企画部企画課	石山 大介
市民文化局地域振興部区政課	真鍋 俊介
保健福祉局保健所医療政策課	林　恵子
子ども未来局子ども育成部放課後児童担当課	渡邊 真央人
西区市民部総務企画課	福迫 かおり
厚別区市民部総務企画課	太田 綾子

2 平成 28 年度活動経過

年月日	内　　容
H28.４～６	メンバー選定
6.23	第１回会議
7.13	第２回会議
8.18	第３回会議
9.17	チ・カ・ホで体験！ジオパーク
10.　1	ドローン操作体験会
10.19	第４回会議
11.12	札幌の街を歩く。～札幌発展の痕跡をたどる旅～
11.17	ＡＩ技術に関する勉強会
12.27	ドローン導入状況に関する調査
H29.1.24～26	ジオパークグルメフェア《第１弾》
2.6～10	ジオパークグルメフェア《第２弾》
1.31	ロボット＆AI 勉強会
2.21	クラフトビールを楽しむ会「クラフトビール王国北海道への道」

3 会議開催実績

○第１回会議

日時　平成 28 年 6 月 23 日（木）　16 時 00 分～17 時 30 分
場所　北海道庁 9 階職員監会議室
内容　・事務局（北海道総合政策部政策局、札幌市まちづくり政策局政策調整課）から、みらい会議の趣旨等について説明
・メンバー間の自己紹介
・今年度の取組について意見交換

○第２回会議

日時　平成 28 年 7 月 13 日（水）　15 時 00 分～17 時 00 分
場所　北海道庁 2 階総合政策部会議室
内容　・取り組むテーマの選定
・メンバーをテーマごとにグループ分け
・Facebook 運営メンバーの決定

○第３回会議

日時　平成 28 年 8 月 18 日（木）　15 時 00 分～17 時 00 分
場所　札幌市役所 9 階北側政策企画部サテライト
内容　・各グループで検討した企画案発表
・企画案について意見交換

○第４回会議

日時　平成 28 年 10 月 19 日（水）　16 時 00 分～17 時 30 分
場所　札幌市役所 9 階北側政策企画部サテライト
内容　・上半期の活動について検証
・今後の取組に関する進捗状況の確認

4 活動実績

（１）道内ジオパークの振興 （H28 年 9 月～H29 年 2 月実施）

■目的

北海道内５地域のジオパークについて、地質・歴史・食といった様々な視点から広く魅力を発信するなど、関係自治体等と協働し、ジオパークの振興に取り組む。

【ユネスコ世界ジオパーク】
・アポイ岳（様似町）、
・洞爺湖有珠山（伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）
【日本ジオパーク】
・白滝（遠軽町）　・とかち鹿追（鹿追町）
・三笠（三笠市）

■取組内容

①チ・カ・ホで体験！ジオパーク（H28.9.17）

札幌市主催の「いいとこ撮り北海道 2016 フォトコンサミット in Sapporo」のプログラムの一つとして、札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）で、ジオパークに関するミニセミナーを開催。

併せて、アポイ岳のかんらん岩に触れたり、顕微鏡で観察したりできる体験コーナーを設置した。

◎ミニセミナー「アポイ岳をはじめとするジオパークの魅力について」
講師：アポイ岳地質研究所所長　新井田 清信 氏

《参加者》約 30 名

②札幌の街を歩く。～札幌発展の痕跡をたどる旅～（H28.11.12）

「ジオ（大地）」が、私たちの生活とどのように関係しているのか、また、札幌市の発展にどのように影響してきたのかについて、「地質」や「地形」の観点から

考えることを目的として、北海道及び札幌市の職員を対象に、幌平橋から北海道大学までの約５キロメールの道のりをガイドとともに歩く「街歩きイベント」を実施。

◎ガイド：地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所主査（表層地質） 廣瀬 亘 氏
《参加者》北海道職員（11 名）、札幌市職員（７名）

③ジオパークグルメフェア（H29.1.24～26、2.6～10）

札幌市役所地下食堂、北海道庁 AKARENGA-CAFE において、道内のジオパークの魅力を「食」という視点から発信する「ジオパークグルメフェア」を開催。

《第１弾「アポイ岳ジオパーク・とかち鹿追ジオパーク」in 札幌市役所地下食堂》（H29.1.24～26）

札幌市役所地下食堂において、様似町「アポイ山荘」の特別メニューを再現した「アポイジオ坦坦麺」、氷室で貯蔵して熟成させた鹿追町の「『氷室出しじゃが』を使用した定食」を提供。様似町による特産品販売も実施した。

◎各メニュー提供数
・アポイ岳ジオパーク「アポイジオ担担麺」60 食×2 日 計 120 食
・とかち鹿追ジオパーク「氷室出しじゃが」を使用した定食　100 食×2 日 計 200 食
※付け合わせとして、1 日目はポテトフライ、2 日目はポテトサラダを提供

《第 2 弾「白滝ジオパーク」in AKARENGA-CAFE》（H29. 2.6～10）

北海道庁内の AKARENGA-CAFE において、みらい会議メンバーが白滝ジオパークをイメージして考案（AKARENGA-CAFE 及び遠軽町が監修）したオリジナルメニュー「白滝・ポテト黒（くろ）ッケ※1」及び「えんがるシェパーズパイ※2」を提供。

◎各メニュー提供数
・白滝ジオパーク「白滝・ポテト黒ッケ」「えんがるシェパーズパイ」
各 60 食×5 日間 計 600 食

※1「白滝・ポテト黒ッケ」
黒曜石に見立てた黒豆をまるごと入れたポテトコロッケ。

※2「えんがるシェパーズパイ」
ミートソースの上にマッシュポテトを重ねてオーブンで焼き、この重なりを地層に見立てたもの。

（いずれも遠軽町特産の「白滝じゃが」と遠軽町「べにや長谷川商店」で取り扱っている道産黒豆を使用）

《メニュー開発の流れ》

アイディア出し ・みらい会議各メンバーがレシピを考案。
↓
企画会議 ・みらい会議メンバー、AKARENGA-CAFE スタッフ、遠軽町職員が参加し、レシピ案（全 15 案）から 2 案を選定。
↓
試作会 ・レシピ案をベースに AKARENGA-CAFE が調理。遠軽町職員を交え、味や見栄え等について意見交換。
↓
完成

▲企画会議での意見交換

▲試作会の様子

▲AKARENGA-CAFE スタッフ、遠軽町職員と記念撮影

■成果

①チ・カ・ホで体験！ジオパーク

・集客の多い既存イベントの場を活用することで、多くの方にジオパークの魅力を伝えることができた。

・体験コーナーは子どもの人気が非常に高く、パネル展示やパンフレットコーナーにも幅広い世代の方が足を止めてくれた。

②札幌の街を歩く。～札幌発展の痕跡をたどる旅～

・観光関係の企業からの問い合わせや、雑誌での掲載など、「ジオ」と「街歩き」という企画に高い関心が寄せられた。

・地質を学ぶガイドツアーは場所を選ばず実施可能であること、観光客だけでなく地元住民にとっても魅力的なコンテンツであることがうかがえた。

③ジオパークグルメフェア

・第１弾、第２弾ともに、用意していた料理が全て完売となるなど、ジオパークについて「食」という切り口で多くの方に情報発信できた。

《全体》

・約半年間にわたり、様々な角度からジオパークに関する取組を実施したことで、多くの方にジオパークに関心を持ってもらうことができた。

・ジオパーク関係自治体等と協働して取り組んだことで、地域の現状や関係者の思いなどを踏まえた企画を実施することができた。

★白滝ジオパーク「Geo Cafe」に参加（H29.1.20/遠軽町）

白滝ジオパーク推進協議会が主催するイベント「Geo Cafe（ジオカフェ）」に、みらい会議メンバー2 名が参加させていただきました。

「Geo Cafe」はカフェのような気楽な雰囲気でジオパークについて学んだり、PR 方法などを考える場として、遠軽町内で定期的に開催されているイベントで、今回は「白滝じゃが」を中心に、調理実習や試食・生産者による解説などが行われました。

実際に地域を訪れて、地元の方と意見交換や交流ができたことは、メンバーにとって大変貴重な経験になりました。

▲白滝じゃがのイモ団子を製作

▲白滝じゃが料理試食・意見交換

▲ジオパークグルメフェアに白滝じゃがを提供していただいた大久保さん（中央）

「白滝・ポテト黒ッケ」「えんがるシェパーズパイ」アンケート結果概要（回答数 146）

●「白滝・ポテト黒ッケ」について

《味の総合評価》

《良かったと思う理由》（複数回答）

	人数	割合※
白滝じゃがの素材の味が生きている	78 人	53%
黒豆の食感が良い	99 人	68%
黒豆=黒曜石が白滝ジオパークを連想しやすい	18 人	12%

《自由意見・感想》

・見た目がよかった　・黒豆が入っているのは珍しい
・竹炭などで見た目も黒いコロッケにしてはどうか
・もっと小さくして一口サイズにしてはどうか
・ソースを添えたらもっと美味しくなると思う

●「えんがるシェパーズパイ」について

《味の総合評価》

《良かったと思う理由》（複数回答）

	人数	割合※
白滝じゃがの素材の味が生きている	75 人	51%
黒豆の食感が良い	64 人	44%
黒豆=黒曜石が白滝ジオパークを連想しやすい	6 人	4%

《自由意見・感想》

・イモのゴツゴツした感じが岩山のように感じられた
・ビールなどのお酒に合いそうな料理だと思った
・チーズと組み合わせるといいと思う
・美味しかったがご飯のおかずにはならない

●その他感想（複数回答）

	人数	割合※
また食べられる機会があったらぜひ食べたいと思った	87 人	60%
遠軽町の特産品を知るきっかけになった	94 人	64%
遠軽町や白滝ジオパークに興味を持った	27 人	18%
遠軽町や白滝ジオパークに行ってみたいと思った	33 人	23%
白滝ジオパークを表現できていると思った	4 人	3%
遠軽町の観光資源になると思った	34 人	23%

※複数回答方式の質問は、割合を算出する分母を回答者数としているため、割合の合計が 100%を超える。

（２）ドローン操作体験会　（H28 年 10 月 1 日開催）

■目的

今後、様々な分野で利活用が期待されるドローンについて学び、実際に操作を体験することで、自治体職員が今後の行政におけるドローンの利活用について考えるきっかけとする。

■取組内容

札幌市内のドローン取扱事業者（HELICAM㈱）協力の下、ドローンの操作体験会を開催。

操作体験会後、道内自治体のドローン活用状況等を把握するための調査を行い、「ドローンの利活用に向けた検討報告書」を作成した。

◎講師：HELICAM 株式会社 代表　丹野 宏柄　氏
《参加者》北海道職員（8 名）、札幌市職員（17 名）、その他道内自治体職員等（15 名）

■成果

・他の自治体からも多くの職員が参加し、中には既にドローンの導入に向けた検討を進めている自治体もあったことから、道内自治体においてドローンに関する説明会や操作体験会等のニーズがあることがわかった。

・操作体験会後に実際にドローンの導入を決めた自治体もあるなど、想定していた以上の成果があった。

・操作体験会前はドローンについて安全面等からネガティブな印象を持っていたが、操作体験会後にはポジティブな印象に変わったという参加者が多かったことから、ドローンの利活用を促進するために、知識の習得や操作体験の場を創出することが効果的であることがわかった。

参加者の声

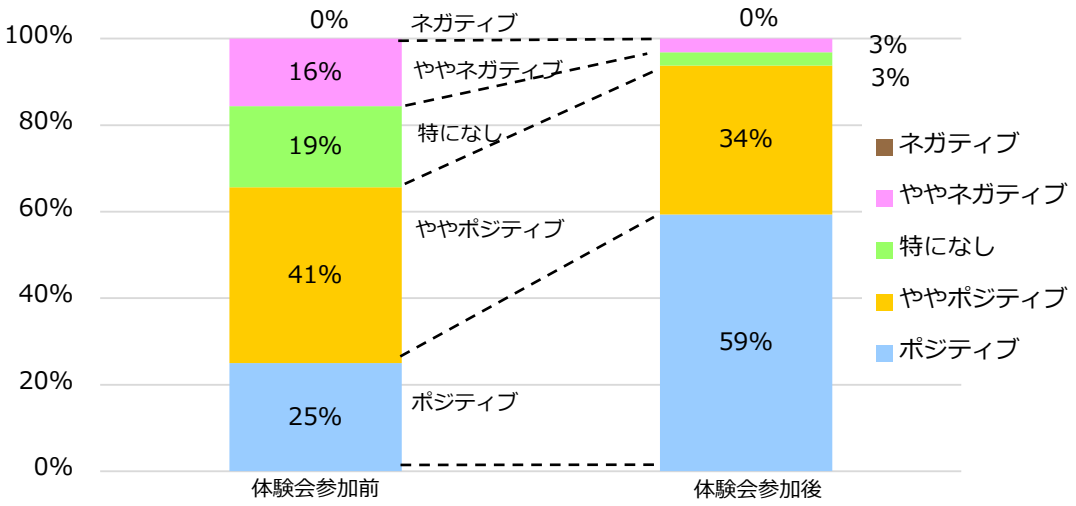
●体験会参加前後での印象の変化

ネガティブな印象

・操縦が難しそう
・安全性能がわからない
・事故等マイナスのイメージが先行している
・メーカーや機種選びが難しそう
・価格が高そう

ポジティブな印象

・予想していたより操縦が簡単だ
・衝突回避機能があるなど、安全性能が高い
・操作性能の良さや映像の綺麗さに感動
・用途に応じた機種選定が可能だ
・価格がそれほど高くはない



●参加者が期待する活躍分野

<防災／救助>
○ 災害状況の調査
○ 災害現場での人命救助
○ 災害時における危険家屋等の確認
○ 遭難者の捜索・救助　　など

<イベント／警備>
○ 記念式典の空撮
○ イベントの撮影
○ 観光地の撮影
○ 警備　　など

<点検／測量>
○ 高所での作業・点検
○ 建築物の老朽化確認
○ 測量
○ 現場図面・地図の作成　　など

<農林水産業>
○ 薬剤散布
○ 有害鳥獣駆除対策
○ 大規模農場の精密化
○ 生育状況調査　　など

●参加者が思うドローン普及の課題

■ 活用事例の情報共有　■ 操作性・利便性のＰＲ　■ マイナスイメージの払拭
■ 購入価格　■ 保証制度の充実　■ 規制緩和
■ プライバシー対策　■ 操作技能の向上（免許制の導入等）
■ 機能性の向上（防水対策、安全性能、飛行時間）　など

（３）AI 等に関する勉強会　（H28 年 11 月 17 日、H29 年 1 月 31 日開催）

■目的

近年、目覚しい発展をみせる AI（人工知能）やコミュニケーションロボットについて学び、地域活性化や業務の効率化など、様々な分野への利活用について考える。

■取組内容

AI 等の研究を進めている企業及び大学（㈱HARP、小樽商科大学、㈱NTT データ）と連携し、AI 等に関する勉強会を 2 回にわたり開催。

①AI 技術に関する勉強会（H28.11.17）

AI 技術に関する道内の若手研究者による講演及びヒューマノイド型パーソナルロボット「Pepper」２体によるデモンストレーションを実施。

◎講演①「人間理解の先には何があるのか」
講師：北海道大学大学院情報科学研究科助教 棟方 渚 氏
◎講演②「自然言語処理と AI 技術の可能性」
講師：小樽商科大学社会情報学科准教授 木村 泰知 氏

《参加者》北海道職員（13 名）、札幌市職員（32 名）、
その他の道内自治体職員（７名）、民間企業・大学等（８名）

②NTT×みらい会議　ロボット＆AI 勉強会（H29.1.31）

株式会社 NTT データの取組に関する講演、勉強会参加者による AI 等の活用に関するアイディアプレゼンのほか、コミュニケーションロボット「Sota」のデモンストレーションを実施した。

◎講演「NTT データのロボティクスへの取り組み」
講師：株式会社 NTT データ 技術開発本部 武田 光平 氏

《参加者》北海道職員（24 名）、札幌市職員（15 名）
その他の道内自治体職員等（４名）、民間企業・大学等（６名）

■成果

・２回の開催で延べ 100 名以上の参加があり、AI 等についての関心の高さがうかがえた。

・アイディアプレゼンの実施は、発表者はもちろん、聞いている参加者にとっても AI 等の利活用について考えるきっかけとなったものと思われる。

・民間企業や大学等からも参加いただき、勉強会後の交流会では、様々な角度から AI 等について意見交換することができた。

参加者の声

人でなければできなかったことを、AI で判断することが進めば人手不足の解消につながりそうだ。

人口減少・労働力不足に対応できる。

AI 技術が小説や音楽といった分野に使われる時代が来ているということに驚いた。

介護関連では、ロボットとの会話は効果があると考えられる。

未来志向の取組の代表例として、ロボット＆ＡＩとのコラボを積極的に検討していきたい。

人口減少社会の昨今、この技術は経済活動には不可欠。ただ、あくまで人を補完するものとして発展させ、AI&ロボットと人との共存が図られるのが大事だと強く感じた。

いくらＡＩ技術が発達しても人間の存在意義が失われるまでの未来世界は望まない。人間にしか出来ないことをロボットを通して知っていくのかもしれない。

通信という手段が複合的なビジネスを生みその根幹を形成していることを知り、とても勉強になった。

ＡＩについての最先端の研究状況やビジネスとしての活用事例などを知ることができて、大変参考になったが、一方で行政におけるＡＩの活用については、現時点では費用面やノウハウの部分で難しいのかなと感じた。道外の行政機関、あるいは海外の行政機関でＡＩの導入事例があれば参考にしてみたい。

北海道、札幌市、企業が連携を深めれば、システムの「道内都市共通化」ができそうな気がした。実現すれば相当なコストカットができると思う。

ロボット＆AI については、万能感はあるものの、実際に何ができて何ができないか、費用・効果などが分かりづらい。実際の業務と関連づけるため、ハッカソン的なグループワークを行える場があれば、業務への活用へも結びつけやすいのではないかと感じた。

自治体として負担の大きい窓口対応、苦情対応などを対象とした活用イメージと、その実現可能性について、専門の方から今後お話をうかがいたい。

Sota の窓口対応などを見せていただき、ＡＩの可能性を実感できた。

日本の AI ビジネスは、アメリカに比べ、やや遅れ気味。北海道内・札幌市内の企業や大学が、日本の AI 技術の開発を主導していけるよう、地方自治体が支援する必要性があることを痛感した。技術立国・日本の興廃が、AI 技術にかかっている。ロボットについては、既に銀行の窓口対応に活用されているが、市町村の窓口対応への導入も検討すべき。

（4）クラフトビールを楽しむ会「クラフトビール王国北海道への道」　（H29 年 2 月 21 日開催）

■目的

全国的に人気が高まっているクラフトビールの現状や魅力について、観光や食、地域づくり等、様々な分野の行政職員が学ぶことで、クラフトビールの観光資源・地域資源としての活用につなげるきっかけとする。

■取組内容

札幌発のクラフトビールイベント「Sapporo Craft Beer Forest（サッポロ・クラフト・ビア・フォレスト）」主催者によるトークセッション及び道内クラフトビールの試飲会を行った。

◎トークセッションスピーカー
「Maltheads」坂巻 紀久雄 氏　　「月と太陽 BREWING」森谷 祐至 氏
◎モデレーター
後木 美緒（みらい会議メンバー）

《参加者》北海道職員（28 名）、札幌市職員（19 名）、その他道内自治体職員等（3 名）
クラフトビール関係者（3 名）

■成果

・トークセッション形式とすることで、参加者に対してクラフトビールの魅力をよりわかりやすく伝えることができた。
・海外のクラフトビールの状況や、外国人観光客への訴求など、インバウンド対応としてのクラフトビールの可能性について学ぶことができた。
・試飲会では、参加者の所属部署で今後予定するイベント等におけるクラフトビールの活用について具体的な意見交換が行われるなど、今後につながるイベントとなった。

参加者の声

北海道の魅力の一つとして、クラフトビールがキラーコンテンツとなる可能性を強く感じた。

副原料として出汁やバジルを使うなど、既成概念にとらわれない自由さがクラフトビールの魅力であり、だからこそ地域性やオリジナリティがあることを知った。

地域の産業としても期待できるし、大手メーカーと組むなどして量を確保できれば輸出することも可能。道や札幌市でも、振興や支援などの動きが出てくるかもしれない。今後の伸展に期待したい。

私たち行政の関わり方は、こういった取り組みを進める方とビジョンや想いを共有し、いかに動きやすい土壌をつくれるかということだと思った。

今後のイベントでオリジナルビールを提供することを検討しはじめた。何とか実現できればと考えている。

道産の農水産品とクラフトビールとの組み合わせの開発なども面白いのでは。ビールだけではなく道産おつまみもセットでビール党にＰＲできれば。

名産の一つである「ラーメン」のように「クラフトビール横丁」のようなブルーパブがまとまった集落が中心部にあるとまちの魅力づくりとしてもよいのでは。

地域ごとに「クラフトビールを楽しむ会」を行うのも面白いのでは。

5 今年度の活動を終えて

平成 25 年度に設立された北海道・札幌市政策研究みらい会議も、今年で 4 年目となりました。

今年度は、任期を通して道内各地域と協働しながら継続的に取り組む「活動の柱」を設定することとし、北海道の魅力資源の一つであるジオパークの振興に力を注ぎました。

ジオパークの魅力を多くの方に効果的に伝えるためのアイディアを出し合いながら、自然、歴史、食など様々な切り口から活動を進めてきましたが、いずれの取組もたくさんの方に参加いただくことができ、報道機関でも紹介されるなど、多くの反響がありました。

これらの取組を進める中で、道内各地の関係者の皆様とお話しをさせていただきましたが、特に遠軽町様とは、生産者や住民の皆様、役場職員の皆様と一緒に白滝ジオパークについて学び考える機会もいただき、非常に貴重な経験をさせていただきました。

その他にも、人工知能（AI）やドローンといった新たな技術について、その現状や可能性について考える場づくりにも取り組みました。これらの革新的な技術が、今後、私たちの社会をどう変えていくのかという視点を持つことは、行政が長期的な政策を考える上で大変重要であると考えており、いずれの取組も当初予定していた定員を上回る参加人数となったことは大変うれしく思っています。

今年度のメンバーもこれまで同様、北海道と札幌市の様々な部署から選出されており、企画や調整といった業務を経験したことのない職員も多く、自主性が問われるみらい会議の活動に戸惑うこともありましたが、「思い」を「形」にする難しさを学び、実践できたことは、今後の業務につながる大きな財産になりました。

みらい会議は今後も続いていきますが、これからも北海道内外の多くの皆様とつながり続けるプロジェクトとして発展していくことを期待しています。

最後になりますが、各取組にご参加いただいた皆様、ご協力いただきました企業、団体の皆様に心より感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月　　北海道・札幌市政策研究みらい会議

平成 29 年 3 月

[お問い合わせ先]
北海道総合政策部政策局　電話 011-231-4111　（21-275）
札幌市まちづくり政策局政策企画部政策調整課　電話 011-211-2206